

令和7年度  
すくわくプログラム活動報告書  
(実施対象：3歳児クラス)

モニカ矢口渡園

Monica

テーマ

## 色の可能性

### 設定理由

アクリル積み木を通して見える景色を面白がり、繰り返し楽しみ友だちや保育者とみせ合っていた。また、アクリル積み木を重ねると色が変わること気付く園児もいた。そのことから、色そのものが持つ様々な効果や色を組み合わせることで得られる可能性を広げていきたいと考えた。

光が多く入る園の構造になっており、保育園の周りも様々な施設や環境が混在しているので、多くの気づきを持てると考える。

### 対象クラス

3歳児クラス・11名

### 活動のねらい

色の面白さ、不思議さを体験する中で自分や自分の周りの環境に意識を向けたり関係性を楽しんだりする

### 問い

「どんな風に見える」 「何色かな」  
「どんな気持ちがする」 「どの色に近いかな」

### 活動期間

令和7年8月～10月

### 活動回数

計4回

## 活動①

# 混色 色の混ざりの面白さ

---

### ねらい

- 色を自分の手を使い混ぜていくことで、色の変化や不思議さを味わうする。
- 照明は落とし落ち着く空間を意識する。また、自然光が織りなす偶然の物語も大切にする。

### 問い

「何色に見える」「どう変わるかな」「どう変わったかな」

### 環境構成

- 好きな色を選べるように十分なスペースを確保する。
- 手に色がつくことに抵抗を持つ子も予想されるため、筆も用意する。
- ダイナミックな活動になるため、子ども達の気持ちが高まりすぎる可能性が考えられる。絵の具などで滑ったり、絵の具を飛ばしたりに繋がらないように十分に気を付ける。

## 活動②

# 混色の面白さ不思議さと色の可能性

---

### ねらい

- 混色を通し、色の面白さ不思議さを味わう

### 問い

「何色に見える」「どんな色に変わった」

### 環境構成

- 色水を使い赤・青・黄色を混ぜると、どのような色に変わるのか、色水だからこそその濃淡の違いを体験する。
- 事前に、食紅を混ぜたボトルを用意する。4～5人の少人数で行う。

### 活動③

## 色と気持ち 色の可能性

---

#### ねらい

- 色に親しみながら、自分の気持ちや思いを表現する楽しさを味わう

#### 問い

「今はどんな気持ちかな」「〇〇色は、どんな気持ちから選んだの？」

#### 環境構成

- 2～3人の少人数で行う。
- 好きな色を選べるように一人ひとつクレヨンを用意する。
- 好きな形の入れ物を選べるように用意して置く。
- 普段の会話の中で、気持ちを色という形であらわすなどし気持ちや思考を整理し言葉にする経験を重ねている。

## 活動④

# 色の豊かさ と 関係性

---

### ねらい

- 身近な環境に視点を向けることで、気づかなかった面白さや色の豊かさを味わう。
- 友だちと探していく中で、それぞれの視点の共通点や違いを共有していく。

### 問い

「似ている色あるかな」「よく見るとどうかな」

### 環境構成

- 小林公園で行う。
- 色板を用意する（赤系・黄色系・青系・緑系・茶色系・オレンジ系）。
- 2～3人ずつの小グループで行うことで、一人ひとりの気づきや友だちとの関わりが落ち着いてできるようにする。
- 室内等で色板を扱う機会を作ることで、色探しに意識が向くようにする。

## 探究活動

【対象クラス・人数】

3歳児クラス 11名

【テーマ】

色の可能性と自分

【テーマを設定した理由】

(子どもの姿や興味関心、テーマ設定にあたって活かした園の強みや環境など)

アクリル積み木を通して見える景色を面白がり、繰り返し楽しみ友だちや保育者とみせ合っていた。また、アクリル積み木を重ねると色が変わること気付く園児もいた。そのことから、色そのものが持つ様々な効果や色を組み合わせることで得られる可能性を広げていきたいと考えた。光が多く入る園の構造になっており、保育園の周りも様々な施設や環境が混在しているので、多くの気づきを持てると考える。

【ねらい】

色の面白さ、不思議さを体験する中で、自分や自分の周りの環境に意識を向けたり、関係性を楽しんだりする。

【キーとなる問い】

「どんな風に見える」「何色かな」「どんな気持ちにする」「どの色に近いかな」

【活動スケジュール】

令和7年8月～令和7年10月

## プロジェクト保育①

○実施日：令和7年8月8日

○場 所：3歳児保育室

○テーマ：色の混ざりの面白さ

○ねらい：色を自分の手を使い混ぜていくことで、色の変化や不思議さを味わう

○問 い：「何色に見える」

「どう変わるかな」

「どう変わったかな」

○準備物：つなぎ合わせた模造紙、絵の具（赤・青・黄）、洗面器、タオル  
ブルーシート、筆

○環 境：好きな色を選べるように十分なスペースを確保する

手に色がつくことに抵抗を持つ子も予想されるため、筆も用意する  
ダイナミックな活動になるため、子ども達の気持ちが高まりすぎる可能性が  
考えられる。絵の具などで滑ったり、絵の具を飛ばしたりに繋がらないように  
十分に気を付ける

○活動記録：

・はじめは単色の絵の具を模造紙に塗っていた。次第に「手にも塗っていい？」という子どもの発言や行動に刺激を受け周りの子も手のひらに塗り始める。違う色も塗っていくことで、色が混ざり変化し「みどりになった」など気づきを伝える姿があった。

・3色の絵の具の空間を空けて配置したことで、すぐに色が混ざらず徐々に混ざり合っていくのを味わうことができた。

・塗り重ねていくうちに「くろになった」と変化していく色を面白がり、さらに色を重ねていく姿があった。ただ、黒になってから色を重ねても変化があまり見られず、不思議がりさらに色を重ねていく様子もうかがえた。





## ○振り返り

はじめは、色の単色を楽しんでいた。中には手形スタンプをイメージする子もいるように見受けられたが、次第に色自体や色の混ざりに意識が向くようになったのが発言からも分かる。

色が重なり混ざる中で、友だちや保育者に対しても視線や会話が交わされるのが比例するように増えていた。混色活動を通して、周りの人との関係も自然と広がっていたのは嬉しく思う。

絵の具という素材を使ったことで、色の混ざり具合が視覚的にも分かりやすく、力加減でゆっくりも観察できたのは子ども達の認識に入りやすかったのではないか。また、絵の具の手触りもありリラックスと体に色がついていく高揚感が入り交じり活動の一体感や気持ちの共有にもつながりやすかったと思う。

次回は、色の濃淡を子ども達の好きな水に絡めて行い、さらなる色の深みや面白さにつなげていきたい。

## プロジェクト保育②

○テーマ:混色の面白さ不思議さと色の可能性

○テーマを設定した理由:前回絵具に触れ全身を使って絵具遊びを行う中で、違う色が重なると色が変わっていく姿に興味を示していた。色水で行うことで更に色を身近に感じることができるのではないかと感じたので、3原色を使い行った。

○問い:「何色に見える」「どんな色に変わった」

○ねらい:混色を通し、色の面白さ不思議さを味わう

○準備物:シャンプーボトル・食紅(赤・青・黄色)水・透明なカップ・透明なお皿  
・ブルーシート

○活動内容:

色水を使い赤・青・黄色を混ぜると、どのような色に変わるのか、色水だからこそその濃淡の違いを体験する。

○環境:事前に、食紅を混ぜたボトルを用意する

4~5人の少人数で行う

活動スケジュール:1回目 8月19日(火)

:2回目 8月26日(火)

★1回目→自由にボトルから、色水を出して、好きなように混ぜてみる。  
混ぜる色や量など決めずに行う。



3色混ぜると、「むぎちゃみたいないろだね」「くろっぽくなった」と話していた。

色水を容器に入れて、色を混ぜることは楽しんでた。

ただ、保育園で初めて扱ったポンプへの興味が高くなってしまい、ポンプから出す事に興味の対象がいつてしまい、色の変化への気づきあまり見られなかった。使用する備品をまず知ることの体験が少なかったのが反省点である。

次回は、2色ずつ混ぜていき色が変わっていく様子に気づけるような環境を作っていく。

★2回目→2色ずつ混ぜてみると、どのように変化するか試す。

子どもたちに、何色からやってみたいか相談し、2色ごとに混ぜてみる。

色が変わっていく変化に気けるようにスプーンを使用し少量ずつ混ぜる。



混ざっていくことを認識しやすくしたことで「みて、きいろを入れたら、きみどりになった」など色が変わること注目していた。

少量ずつゆっくり混ぜてみると、「なんかできた」と模様のような混ぜり方をしている様子を見て不思議そうな表情しており関心を寄せているのがうかがえた。

量によって色の濃さが変わり、同じ色を混ぜても、色の濃淡が違うことに気づく児もいた。

何度が行う中で両手にカップを持ち同時に同じ量の色水を混ぜてみることを試す子どももいて、混ぜ方を自分で考えて工夫する姿があった。

それぞれが混ぜた色水を見て、色を見比べ「このいろがすき」とできた色への気づきや感想を言葉にして伝え合う姿があった。

### プロジェクト保育③

○実施日：令和7年10月9.10.15日

○場 所：玄関スペース

○テーマ：色と気持ち 色の可能性

○ねらい：色に親しみながら、自分の気持ちや思いを表現する楽しさを味わう

○問 い：「今はどんな気持ちかな」

「〇〇色は、どんな気持ちから選んだの？」

○準備物：入れ物(2種類)を書いた画用紙、クレヨン、  
絵本「カラーモンスター きもちはなにいろ？」

○環 境：2~3人の少人数で行う

好きな色を選べるように一人ひとつクレヨンを用意する

好きな形の入れ物を選べるように用意して置く

普段の会話の中で、気持ちを色という形であらわすなどし気持ちや思考を整理し言葉にする経験を重ねている



○配慮： 自分の気持ちに向き合っている時は必要以上に言葉を掛けない  
どんな気持ちかを聞いた時は受け止める言葉を掛けるようにする

## ○活動記録

- ・きいろ「ぱぱとまま だいすきだから」、みどり「つかれたから ゆっくりするの」  
「しめるの あいちゃうから」(入れ物のふたに色を塗る)  
色を重ねていく(あお、ピンク、みどり…)「へんないろになった」
- ・みずいろ「まま もっとあそびたかった」あお「いっぱいすぎたから ふたしめたの」
- ・力強く色を塗っていく。「ぴんく あか」
- ・くろ「かなしいきもち」「こおりびくみんをかしてあげたの」「いろ たのしみだから」
- ・色を選んだ理由を聞いてみると、「わかんない。いっぱいかいてみたら わかるかも」  
「ぱぱ もーもーさんのアイスを食べるのが うれしいの」
- ・「いろんなきもちがまざっちゃった」、あか「おこってるとき、わからないよー」  
きいろ「いま あそんでるとき たのしいきもち」、みどり「ねてるとき おだやか」  
水色は水。○は泡、お花咲いてる。
- ・みどり「おだやかなきもち」 きいろ「うれしいきもち ダンゴムシさがしてた」
- ・「はっぱがだいすきだから」「にじいろすべりだい」
- ・「カラフルなきもち」 あか「ぱぱがおこって こわいきもち」、しろ「え?ってこと なんにもないってこと」、きりん「きりんさんにずーっといたいきもち」
- ・「ふたがあかないように このいろぬろー」、みどり「ママとパパにあいたいから」  
ぴんく「うれしいきもち かかがいっしょにいてくれたから」
- ・好きな色を選び、力強く色を塗る。



### ○振り返り

それぞれ自分の思いを色というツールを使い表現をしていた。その際、この色は、この感情という囚われがなく、自由に考えや気持ちと結び付けていた。

気持ちに意識を向け、可視化できるようグラフィックという方法を用いたおかげで、展示した際も子ども達が得意げに保護者や友だちに自身の気持ちの瓶の絵について話している姿が多かった。また、友だちの絵にも関心があり、「あれは〇〇ちゃんのだよ」など他者への関心も自然と高まっていたように思う。

思考や気持ちに向き合い、整理し、色に言葉を添えて伝え伝わるという、安心感や嬉しさに繋がっていた。

#### プロジェクト保育④ 色の明度

○テーマ:色の豊富さと関係性

○テーマを設定した理由:

保育室で色探し遊びを行った際に、「ここにもあるよ」「これは、〇色だよ」と子どもたちの色に対する気づきや意識が変わってく様子を感じた。

友だちと一緒に「探す」面白さを感じている様子もあり、友だちや保育者と一緒に行なうことで、色の濃淡などにも興味をもって取り組む姿が見られるのではないかと考えた。また、似ているが違う色などを探す中で自分と友だちの気づきの違いなども経験してほしいと思い設定をした。

○ねらい:

身近な環境に視点を向けることで、気づかなかった面白さや色の豊かさを味わう。

友だちと探していく中で、それぞれの視点の共通点や違いを共有していく。

○キーとなる問い:「似ている色あるかな」

「よく見るとどうかな」

○活動スケジュール:10月21日(火)~10月28日(火)

○活動内容、環境設定、準備物、配慮:

・小林公園で行う

・色板を用意する(赤系・黄色系・青系・緑系・茶色系・オレンジ系)

・2,3人ずつの小グループで行うことで、一人ひとりの気づきや友だちとの関わりが落ち着いてできるようにする。

・室内等で色板を扱う機会を作ることで、色探しに意識が向くようにする。

○活動記録:

・グラデーションの色板に興味を示し、公園内の様々な物に色板を当てていた。

・公園内は草花やベンチ、遊具など様々な色があるため公園内を動き回りながら色探しをする様子がみられた。

・色板に似ている色を見つけると、保育者に知らせたり、その様子を感じて友だちが寄ってきたりと関わりや共有する姿も発生していた。

・色探しの面白さや楽しさが印象的だった子も複数おり、後日子ども達から「いろやりたい」とリクエストもあった。しかし、中には公園という場所だからこそ遊具での遊びや追いかっことへの欲求が高く、色探しに意識が向きにくい子もいた。



#### ○振り返り

普段の公園遊びでは、自然物や遊具など周りの環境をじっくり観察する様子が少ないが、今回の色探しで意識や視点を向ける姿が見られた。

どの色が近いか、色板と見比べるなかで対象物に色板を当て比べ、考え、保育者や友達に伝える工程を楽しんでいた。探していた色を見つけた時「あった」と声を上げて伝え、保育者や友達と共有することで更に喜びを感じている様子だった。

色板を使い、身近なものにフォーカスをあて自分を取り囲む環境を認識したり、新たな発見を楽しんだりにつながったのではないかな。また、人とのつながり物との関係性など世界が広がっていく一端になればと思う。



## 使用物

絵の具（赤・青・黄） | 模造紙 | シャンプーボトル | 食紅(赤・青・黄色) | 水 | 透明なカップ  
透明なお皿 | ビン | スプーン | ブルーシート | タオル | 色板 | 絵本『カラーモンスター』  
クレヨン | 机 | 椅子

テーマ：色の可能性

## 全体の振り返り

色を通し周りの友だちや物的環境に意識を向けたり関わったりすることができていた。混色活動の面白さや不思議さ、色を使い自分の気持ちを表現する中で、子どもたちの豊かな考えに触れることができた。今後もその可能性を大切にしていきたい。

終



**株式会社モニカ**

〒105-0004  
東京都港区新橋1-9-5 KDX新橋駅前ビル 3F  
TEL:03-6661-2466  
FAX:03-6661-2467

**モニカ矢口渡園**

〒144-0054  
東京都大田区新蒲田2-10-5  
TEL:03-6424-5833  
FAX:03-6424-5875